

にいがた 原点家

風土のデザインを探る 住まいの原点を探る

日本の住宅はこの半世紀の間に自らのデザインを見失った。

かつて、新潟の住まいにも風土のデザインがあった。

かつての家は身近な材料で、じっくりと創られた。

わずか20年で価値の無くなる家、誰も住み継がない家、そして解体される家。

近年、住宅は様々な問題を抱えている。

環境問題、省資源、エネルギー - 大量消費、シックハウス、結露、建築廃棄物、森林荒廃
見かけの流行外装、幻想でしかないインテリア、困惑させる利便性機器。

便利な生活に慣れすぎて、本来の姿が見えない、住まいの本質が見えない。

私たち達は次代の子供たちへ、どんな住宅環境を残すことができるのか。



住み継がれる民家



開かれた民家の縁側



新興住宅地家並み



現代住宅の内装

今、もう一度住まいを見直す時、原点に戻ってもう一度住まうことを考える時。

あなたにとって住まいとは何か？あなたの家族にとって住まうとは何か？

もっと自然で、もっとシンプルで、そして原点としての適度な快さを伴うもの。

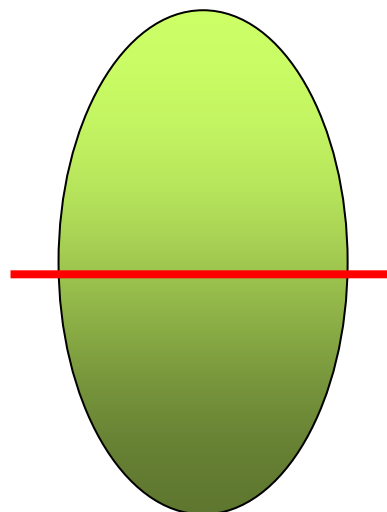
住まいは、住まう楽しさを日々記憶する、家族アルバムでありたい。

だから今、情報が混迷するこの時代に、にいがたの住まいの原点を探る。

原点

原点とは最小の地点という意味ではなくその裏に負の部分を持ちます。この負の領域は自らの生存をも危うくするような消費が突出し、生態系の循環を断ち切ってきました。

持続可能な社会の確立の為に、この地域において一般解として受け入れられる風土の住まい方を標榜し、これからの原点となる住まいを負を越えた±0を最低限の仕様(原点)と捉えます。



+

環境と調和しながら自立
開けたり閉めたり
ライフサイクルコスト
あきない、さわれる

±0

にいがた原点家

-

家だけで完結 / 孤立
空調コントロール
中身のないローコスト
メンテナンスフリー